



阿蘇草原再生レポート

活動報告書2011

阿蘇草原再生協議会



目次

はじめに	P 1
1. 協議会の取り組みによる成果(阿蘇草原再生への貢献)	P 2
2. 活動結果報告	P 4
活動報告(1) 様々な形で牧野の利用と維持管理を続ける	P 7
活動報告(2) 多様な動植物でにぎわう草原を再生する	P 22
活動報告(3) 草原に理解、愛着を持つ人を増やす	P 27
活動報告(4) 野草資源を活用する	P 39
活動報告(5) 草原と結びついた観光を進める	P 43
3. 阿蘇草原再生募金による助成支援活動報告	P 48
4. 阿蘇の草原をフィールドにした研究者の活動	P 52
5. 阿蘇の草原は今 - 熊本県による調査結果より	P 54
6. 阿蘇草原再生協議会の活動	P 56
(1) 組織	
(2) 阿蘇草原再生全体構想	
(3) 「活動計画」と「活動結果報告」のしくみ	
(4) 阿蘇草原再生募金とその仕組み	
(5) 活動年表	

参考資料

- 阿蘇草原再生協議会設置要綱
- 阿蘇草原再生協議会運営細則
- 阿蘇草原再生協議会募金規約
- 阿蘇草原再生募金委員会設置・運営規則
- 協議会構成員名簿

COLUMN

- 1. 構成員の牧野を紹介します P16
- 2. 支援ボランティア活動の歴史 P19
- 3. 阿蘇草原キッズ・プロジェクトの取り組み P31

「阿蘇草原再生レポート」の発行について

本レポートは、協議会構成員による草原再生に向けた活動について、前年度1年間の活動状況ととりまとめて報告するものです。2009年8月に第1号を発行し、今回で4号目となります。

構成員の方々から提出された活動結果報告から、全体の活動状況や全体構想で示した取り組みの進捗等を把握し、それぞれの取り組みのさらなる展開や、草原保全・再生に向けた活動の輪を広げていくために活用していきます。

はじめに

世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大で優美な阿蘇の草原。

この草原は、採草、放牧、野焼きなど地域の人々の営みによって生まれ、自然と人間との共生により引き継がれてきました。

農業・畜産との密接な関わりの中で継続的に維持され、人々の生活に恵みをもたらしてきた草原は、草原特有の動植物の宝庫であり、生物多様性保全の場としてかけがえのない価値を有しています。また、四季折々に変化する草原や牛馬の放牧風景は、国立公園阿蘇の景観を構成する重要な要素であり、年間 1,700 万人もの観光客を魅了しています。阿蘇の草原は九州中部から北部にある 6 本の一級河川の源流域にあたり、さらに雨水が地下浸透しやすい環境にあることによりもたらされる豊富な地下水は、熊本市民をはじめ九州中・北部、約 230 万人もの人々の暮らしにうるおいを与えています。

様々な価値を有する草原が今、危機に瀕しています。生活様式の変化や畜産の低迷などにより、近年、面積の減少や藪化などの荒廃が目立つようになり、人々により守り継がれてきた豊かな自然に恵まれた草原が、その姿を変えつつあります。

このような中、かけがえのない阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、草原に関わる様々な団体や個人が集まって、平成 17 年 12 月に阿蘇草原再生協議会が設立されました。

協議会では、19 年 3 月に「阿蘇草原再生全体構想」を策定してから 5 年が経過し、構成員はその目標や考え方を共通認識として、様々な取り組みを着実に進めています。

阿蘇草原再生協議会では、「阿蘇草原再生募金」を創設し、これまで以上に幅広い方々からのサポートの下に草原再生の取り組みを進めていく体制が整いました。平成 23 年の秋からは募金の支援を受けた活動もスタートし、牧野組合を中心とする構成員も大幅に増え、多くの方々の阿蘇の草原への想いが実際の成果として実を結びはじめています。

平成 24 年は、野焼きボランティアの人身事故や九州北部豪雨災害による甚大な被害が発生し、草原再生についても防災対策や安全面の再検討を迫られているとも言えます。

本レポートにより、多くの方々にこの 1 年間の阿蘇の草原保全・再生に向けた活動状況を知っていただき、さらなる活動展開や理解促進につながっていくことを期待しています。

平成 24 年 9 月
阿蘇草原再生協議会
会長 高橋 佳孝

九州の中の阿蘇地域



阿蘇の草原は 6 本の一級河川の源流域にあたり、230 万人の飲み水がまかなわれている。

1 協議会の取り組みによる成果(阿蘇草原再生への貢献)

今回提出された活動結果報告から、利用・維持管理継続により再生、または守られる草原の量を試算することにより、草原再生への貢献度を検証しました。

放牧・採草利用への貢献

採草により守られた面積：約 47ha

- ・平成 23 年度の活動結果報告による採草利用面積は、47ha、前年度から 35.65ha の減少。阿蘇市が平成 17 年度から組んだバイオマスエネルギー利活用事業の終了が大きく影響している。
- ・一方、阿蘇草原再生シール生産者の会による採草活動は微力ながら貢献する結果となった。

NO	事業名・活動名	採草面積 (ha)
13	阿蘇花野再生プロジェクト ステップ	2.20
14	花咲盛における生物多様性保全活動	10.00
27	採草地保全、野草堆肥を利用した農産品の流通拡大に向けた活動	25.00
28	採草による未利用草地の再生	9.80
	合計	47.00

NO は、活動報告の番号 (以下同じ)

維持管理面での貢献

協議会構成員の牧野組合等が維持管理する牧野面積：約 14,622ha

協議会構成員の牧野組合等による野焼き面積：10,757ha

- ・平成 23 年度には、新たに構成員として 43 牧野組合等が加入しました。これにより、構成員の牧野組合により守られる草原面積は 14,622ha (87 牧野)、前年度と比較して 52% 増となり、阿蘇郡市内の牧野総面積の約 67% が構成員により維持管理されています。
- ・野焼き面積は、前年度から約 46% 増、10,757ha となりました。

これは阿蘇郡市内全体の野焼き面積の 66% にあたります。

樹林地除去等により草原が復活した面積：34.36ha

- ・阿蘇市の草千里再生等事業などの樹林地除去に加え、ヤブ化した草原の雑木伐採も含めて 34.36ha が草原として復活しています。

NO	事業名・活動名	伐採面積 (ha)
1	森林伐採による草原維持管理の作業負担軽減と草原再生	6.16
2	ヤブ化した草原の再生による放牧面積の拡大 ¹	(5.17)+7.53
7	野焼き作業の省力化及び野草地利用を支援する作業道、歩道整備事業	6.30
8	輪地切り作業軽減のための防火帯整備と小規模樹林伐採事業	12.17
13	阿蘇花野再生プロジェクト ステップ	3.20
	合計	34.36

1: 8「輪地切り作業軽減のための防火帯整備と小規模樹林伐採事業」と重複 (5.17):()内の数値は重複分(以下同じ)

管理道等整備事業により草原維持管理の作業負担が軽減した牧野組合の面積：1,370ha

- ・牧野カルテを基に、4 牧野で合計 3,407 m の作業道・防火帯整備が行われました。

これにより作業負担の軽減が図られた牧野組合の面積は合計 1,370ha、

平成 18 年度からの累計は、約 4,020ha に及びます。

支援ボランティア等の活躍

野焼き・輪地切り等の維持管理作業へのボランティア参加数：延べ2,395人・日

- ・阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティアの派遣数は年々増え続けており、平成23年度は延べ2,307人となりました。これにトラスト地などの野焼き等管理への参加を加えると、延べ2,395人のボランティアが活躍しており、昨年度の実績(2,258名)を上回っています。

ボランティアが支援した野焼き面積：5,516ha(阿蘇全体の野焼き面積の3分の1以上)

NO	事業・活動名	野焼き面積 (ha)	人数 (人)
3	草原再生事業(野焼き) 1	(68)+0	(85)+0
9	2011年度秋の輪地切り支援ボランティア		1,253
10	2011年度野焼き及び輪地切り支援ボランティア	5,500	1,054
13	阿蘇花野再生プロジェクト ステップ	4	43
14	花咲盛における生物多様性保全活動 2	10	(48)+35
15	地域生物多様性保全事業	2.2	10
	合計	5,516.2	2,395

1・2・9・10「2011年度野焼き及び輪地切り支援ボランティア活動」と重複

阿蘇の草原への理解の拡大

草原環境学習関連の活動への参加：延べ21,700人以上

- ・小学生から一般の人々まで、草原環境学習等への参加人数は21,600人以上、前年度と比較して1.7倍に増加しました。

参加者のうち小中高生が約8割を占めています。阿蘇草原キッズ・プロジェクトをはじめ、構成員間の連携により実施する子どもたちを対象としたプログラムの実施が増えています。



モデル校の取り組みの様子、『阿蘇の草原キッズになろう!』秋編『野焼き編』より

NO	事業・活動名	参加者数(人)		
		小中高生	一般	合計
13	阿蘇花野再生プロジェクト ステップ	0	51	51
14	花咲盛における生物多様性保全活動	0	590	590
16	GISによる「草原自然環境マップ」オペレーター育成講習会	0	12	12
17	阿蘇の火山体験学習	9,914	1,148	11,062
18	阿蘇の草原ファンを作ろう	2,834	214	3048
19	阿蘇エコツアー	80	0	80
20	「阿蘇の草原キッズになろう!」【秋編】【野焼き編】 1	(125)+152	0	152
21	阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト 2	(40)+(115)+270	0	270
22	出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう	798	8	798
23	モデル校における年間プログラムの実践 3	2,667	0	2,667
24	草原の宝について学ぼう 4	(185)+52	88	140
26	阿蘇草原再生フォーラム	0	280	280
30	阿蘇エコツーリズムの推進	0	71	71
31	阿蘇人ツーリズムの実施	1,328	0	1,328
32	南阿蘇ビジターセンター自然ふれあい活動	*	*	1,176
33	写真教室 撮影ツアー	0	59	59
	合計			21,748

1 23「モデル校における年間プログラムの実践」と重複

2 23「モデル校における年間プログラムの実践」、22「出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう」と重複

3 参加者数×プログラムのコマ数で算出

4 23「モデル校における年間プログラムの実践」と重複

上記の他に、

年間を通じた環境学習の取り組みも実施されています。

- ・「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」では、地域の全小学校の参加を目指しており、平成23年度は、14校、557人の児童が学習に参加しました。